DOYU IWATE

7 July

2024 Vol.177

同友いわて

「地域循環型社会への取り組みこそが、私たちの使命」

～目の前にあった新たな付加価値を生み出す連携・新事業の芽～

住田住宅産業㈱ 代表取締役 中野 和人 氏

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

岩手県中小企業家同友会 | http://www.iwate.doyu.jp/ |

〈シリーズ〉

活き生き企業訪問記

「地域循環型社会への取り組みこそが、私たちの使命」

～目の前にあった新たな付加価値を生み出す連携・新事業の芽～

住田住宅産業㈱　代表取締役　中野 和人 氏

気仙大工の技を継承して

東日本大震災発災直後、津波被害を受けた陸前高田市や大船渡市の内陸に隣接した住田町内では、木工団地や製材所、建設会社が一致協力し住田町独自の一戸建て木造仮設住宅の建設がすぐに始められました。そのスピードと地元の住田町産材を使用した圧倒的な迫力に、全国から大変な脚光を浴びました。

その一翼を担った住田住宅産業㈱は町内の森林組合、農業協同組合、建設業協同組合、製材業協同組合の各団体の出資でスタートしました。町長が代々社長を担い、住田町の木材を使用し、腕の確かな気仙大工が揃って関東の市場に注力し「気仙大工がつくる本格木造住宅」を木材の原産地から提案してきました。

しかし時代の流れもあり、本格木造住宅から全国的に住宅メーカーのローコスト住宅に需要が大きく変わり、最近では厳しい状況が続いていました。第3セクターから徐々に民間型企業へと移行しつつあるなか6代目社長となった中野和人氏は、これまでのように森づくりに始まり、木材の加工製造から建築まで、地域完全循環型の新築木造住宅メインの建築業だけでは、今後未来はないと考えていました。更に追いうちをかけるように襲ったコロナ感染拡大の影響に、熟練の気仙大工を抱える経営者として、独り苦しい日々を過ごしていました。

中野　和人 氏

想像もしなかった社員の言葉

そんな中でひょっこり会社を突然訪問をしたのは、岩手同友会の岩手リアス支部のメンバーでした。「最近顔見ないからさ」との言葉に、止めどなく言葉が溢れ出したのを記憶しています。

支部の仲間の呼び掛けに、その後危機感を持って半年間の第17期経営指針実践塾に参加、経営指針の成文化へ挑戦しました。いよいよ最後、経営指針の発表という場面でした。一人で作り上げた指針書でしたが、社員全員が仕事を止めてホテルの発表の場に駆けつけました。「受注が極端に減り、社長が苦しんでいるのはみんなわかっていた。横で見ていて、いつ私たちに相談してくれるのだろう、とみんなで話していた。社長、何でも言ってください。」感動のあまり泣き崩れたのは社長でした。

気仙大工は岩手県気仙地方（藩政期は伊達領）の大工の呼称です。江戸時代は、出稼ぎを中心とした大工集団をつくり、民家はもちろん堂宮から建具、細工もこなす多能な一団でした。中野氏はそんな彼らに気遣いし、大型受注を取ることが思考の中心になっていたのでした。

細部に生かされる気仙大工の技術

技術の伝承と教育の場としての住田町

これまで住田町が培ってきた地域で完全に循環する森林業、建築業は、見方を変えれば、伐採前の山林や製材過程を見てもらい町産材の魅力を伝える、町全体が展示場の役割も果たします。そして森は次代を担う子どもたちへの学習の場でもあり、森、木と触れあえる体験の場にもなります。

またそれぞれの分野のベテランの皆さんに教えを受けながら、森林整備や製材技術、果ては気仙大工の技術の伝承まで受けることができる、技術の伝承と教育の場にもなっていきます。

地域を見回すと、歴史を重ねてきた気仙大工を中心とした技術者集団が揃っていました。屋根板金の分野では、神社仏閣の屋根や壁面の細かい

気仙杉を丸ごと一本使用したテラス、テーブル（おかずや和笑輪）

細工ができる全国でも屈指のプロ集団がいました。塗装の分野では、一般的な左官業の技術も習得している専門家がいました。大震災で大活躍した水道、電気インフラの専門家も揃っています。そして振り返ると、木材加工を得意とする製材業の皆さんもちゃんと控えてくれていました。

実は目の前にあった新事業の芽

経営指針の発表から間もなく、ある陸前高田の惣菜店から注文を受けたのは、オープンテラスの木をふんだんに使用した青空が生える屋根と、気仙杉を丸ごと使ったテーブルでした。社員の大工さんに相談し、たった2日で生まれたそのクオリティーは、まさにオーダーメイドの世界に一つしかないどっしりとした存在感。木本来の特色を最大限に生かした新提案でした。

中野氏は話します。「経営指針実践塾のレジュメのはじめに、いつも『学ぶとは誠実を胸に刻むこと、教えるとは共に希望を語ること』と書いてありました。まさにここに尽きると思います。投げ出しそうになったとき、苦しくなったとき、地域で手を離さずいてくれる仲間が必ずいます。そして一緒に頑張ってきた社員がいます。そこに気づいたとき、実はすぐそばに、新たな付加価値を生み出す連携や新事業の芽が沢山あることがわかりました。地域循環型社会への取り組みこそが、私たちの企業像・使命と思います。」

積み重ね取り組んで来た歴史、地域の上に新たな時代を切り拓くヒントがあります。

カーブが見事な屋根のフォルム（住田町滝観洞）

経営理念

私たちは、木本来の特色を最大限に生かし、豊かな木の住まいを提供します。

私たちは、気づかいを通じて自然を育み、地域社会と地球の未来に貢献します。

私たちは、全ての出会いに感謝し、互いに尊重し学び合いながら成長します。

会社概要

創　業　1982年
資本金　2050万円
社員数　6名
住　所　〒029-2311　岩手県気仙郡住田町世田米日向61-1
電　話　0192-46-2465
https://www.sumita-j.com/

女性部会 144ダイガク ～AI新時代の到来

中小企業の業務効率化のカギは生成AIの活用？

女性部では年間を通し、学びと実践報告の例会を隔月で行っています。5月のツキイチ144大学は、「Chat GPT」を活用した業務効率化のコツを学ぼうと、㈱ホップス　代表取締役　工藤昌代氏から「会話を通じて自然な文章を生成するAI、「Chat GPT」の活用事例について」をテーマにお話しいただき、実践しました。

Chat GPTは、約一億ユーザーが登録した新しいサービス GPT（Generative Pre-trained Transformer）技術に基づき大量のテキストデータを用いて訓練され作成されたものです。私たちが質問すると、質問が回答するようにテキストを作成することが可能で、人間と会話しているような自然な文章で質問に答えてくれます。

今回はChat GPTでどんなことができるのか。使うことで向いていること。不向きなことなど、パソコンを使って設定方法や指示方法、コツなどの説明をしていただきました。

その後はパソコンや各自の携帯で実際に体験し、その企業での活用方法を考えました。

初めて触れる方が多くいる中で会場内は「ここまでできるとは思わなかった。遥かに私たちの想像の域を越えている」「これは中小企業の現場で生かさない手はない。業務の効率化に即つながる」など大いに盛り上がりました。

用意した会場からあふれるほどの参加人数に、女性部の取り組みの先進性があらためて確認できた例会となりました。

岩手同友会第34回定時総会 120名の参加で盛大に開催

2024スローガン「『21世紀型中小企業づくり』の原点に立ち、『克ち進む』経営実践へ向け全力傾注しよう！」

岩手同友会の第34回定時総会が5月28日(火)アートホテル盛岡で開催されました。例年八十名前後の参加でしたが、会勢の増加に伴い、今年は百二十名の参加で熱気溢れる総会の開催となりました。

我われ中小企業が地域経済の担い手として

はじめに代表理事挨拶に立った田村満氏（㈱高田自動車学校　取締役会長）は「皆様のご奮闘で、3月31日に400名会員を達成しました。岩手同友会にとっても創立から33年の歴史の中で大変素晴らしいことです。ただし県内には13500社あまりの企業があり、まだそのたった3％足らずです。国全体が人口減少、少子高齢現象が顕著になるなかで、いまだ施策の多くは大企業を中心としたものに傾いています。事業所の99・8％、雇用の7割以上を支える中小企業は、地域経済のインフラでもあり、中小企業憲章でも言っているとおり、本来は中小企業が経済を牽引する力であり社会の主役として担う使命があるはずですが、まだまだそこまでの評価は不足しているように思います。やはり声を大きく出していくためにも、同友会運動の担い手としての会員数をもっともっと増やしていかなければなりません。ぜひ皆さんには、今日ご提起する議案をもとに、じっくりと議論をしていただき、地域を牽引するリーダーとしてご奮闘いただきますよう、切に願います」との熱い思いからスタートしました。

また来賓として、岩手県商工労働観光部経営支援課総括課長　小野寺重男氏、盛岡市商工労働部次長曽根田雅彦氏にご挨拶をいただき、期待の声が寄せられる中で今年の総会が行われました。

「生き残る」から「克ち進む」経営、そして実践へ

昨年度の振り返りでは、昨年の総会記念講演のテーマに掲げた、㈱エイベックス代表取締役会長の加藤明彦氏（愛知同友会）のご提起「『生き残る』経営から『克ち進む』経営への深化を」についてあらためてその取り組みの成果を確認しました。

岩手同友会では加藤氏からの提起を受け、「事業領域を再確認（見直し）し『生き残る』経営から『克ち進む』経営へ全力で向かおう」とのスローガンを一年間掲げ、取り組みました。その結果、各地で各社の強みを見つめ直し、どのように事業領域を拡大していくかを具体的に語り合う機会が増加し、「コロナ禍を経て、全く経営環境が変わってしまった。むしろ事業領域の検討の前に経営理念を含めた事業定義の再確認、再検討が必要では」との意見が多数出され、自社の立ち位置をあらためて見つめ直す機会をつくることの必要性が呼び掛けられました。

そして今年はそれを受け、2024年度スローガンとして「『21世紀型中小企業づくり』の原点に立ち、『克ち進む』経営実践へ向け全力傾注しよう！」を掲げ一年間取り組むことを確認しました。

「社風は誰にも真似できない強みになる」

また、その後行われた特別例会では、中小企業家同友会全国協議会　青年部連絡会会長の㈲ウメイチ　代表取締役梅田益生氏（岐阜同友会）をお迎えし、「『呉服の販売業』から『記念日のプロデュース業』へ」～会社のビジョンと社員の夢を共に語り合える企業づくり～」をテーマにご報告いただき、グループ討論では深い議論が交わされました。

感想では「会社のビジョンと社員の夢の重なりをできるだけ大きくすることが重要だと思った。」「経営者自身がどれだけ主体的に行動し、社員と関わりを持つしかないのだとあらためて実感した。」「社風をつくるのは難しいが、圧倒的な差別化につながることに確信を持つことができた。克ち進む（力を出しつくす）ために会社のビジョン、社員のビジョン、世の中のニーズを合わせる最大級の努力を尽くすことが自主だと思った。」などが寄せられ、参加者それぞれが自身に置き換え、決意する思いがあった総会。特別例会となりました。

報告要旨、質問への回答などは次号での掲載を予定しています。

盛岡支部総会・特別例会

2024スローガン「社員との信頼関係を深め、共に学び合い、混迷の時代を生き抜く企業づくりを」

4月24日（水）盛岡支部総会・特別例会がホテルエース盛岡で行われました。

当日は㈲フィダール　代表取締役　林翔太氏（宮城同友会）を報告者に迎え、36名が参加し総会が行われました。

最初に中村支部長より、「昨年は小グループ会や支部例会でたくさんの事例報告がありました。今年度も皆さんと一緒に支部運営をしていきたいと思います。」とあいさつがありました。

その後昨年を振り返っての活動報告があり、2024年度の役員が決議され今年度のスローガン「社員との信頼関係を深め、共に学び合い、混迷の時代を生き抜く企業づくりを」と5つの活動方針、①会員相互の経営を研鑽しながら会の活動を行います。②人を生かす経営の確立を学び、同友会型企業の会員や仲間を増やします。③本音で謙虚に語り合える会を目ざします。④会の存在意義を深め、会外への発信を積極的に行います。⑤会での学びを会社で実行します。を全会一致で採択。新たな年度をスタートしました。

林　翔太 氏

特別例会では㈲フィダール代表取締役　林翔太氏（宮城同友会）から「現状から見えた自社の未来と事業定義」をテーマにお話をしていただきました。以下当日の報告から抜粋してご紹介します。

利益得るためから柱になるものを

1976年父親が創業し、20年間は利益を得るために炭酸水や医療関係器具などの販売を行っていましたが、これからはわが社にとって「これ」というものが必要だということで飲食一本でいくことになり1995年「らーめん堂仙台っ子」1号店を国分町にオープンしました。その後、「牛たん若」そして現在は「らーめん堂仙台っ子」の店舗も増え直営店6店舗、独立店7店舗の計13店舗と新たにスープブランド「Ｏｎｅ Ｄｏ」も立上げています。

入社2年目の26歳で会社を継ぎますが、当時は、どんぶり勘定で目標もなければ規定のルールもなかったと話します。退職者が相次ぎ、ここまで一生懸命やってきたのに「なぜ」という思いがありました。その頃に宮城同友会の「経営指針を創る会」と出会うことになります。

道標である指針書の実践

指針受講直後、体調を悪くし一年以上伏せる状況になりましたが、食事療法を取り入れ、体が回復することができました。それまで食は「美味しくて」「楽しく」提供することを考えていましたが、病気を機に「食は人生を変える力がある。食の力を追求しよう」に考えが変化。

社長が不在の中、社員が頼るものはこの指針書しかありません。そこで社員は指針書を元に会社を保ち、過去最高の売上げを計上します。あらためて「食の可能性を追求し得られる喜びを提供することで世の中を豊かにしていきたい。」という理念に込められた思い、そして支えてくれる家族、社員。その道標として指針を実践していこうと思ったのでした。

地域の旗振り役になる会社へ

これからという中で起きたのがコロナでした。コロナ禍で売り上げが半減。このままでは半年持たないという状況に。そこで見えてきたのが強い経営体質を築いて来なかったことが大きな課題として見えて来ました。コロナで家族での食事の時間が増えたのに食事の豊さが減りました。

経営指針を作成した当初の事業定義は、「地域の元気をつくる『活力創造業』」でしたが、自身が病から回復し、美味しいものを食べれるようになり心が豊かになった時の体験から、「おいしくご飯が食べられる日常の豊かさをどれだけ伝えていけるのか」が、自社の価値になると掲げていました。

そこから現在は「日常をより豊かにする食の感動体験を通じて人と地域の元気をつくるのが我われの仕事」と定義しています。今後は食産業を強く楽しく誇らしく豊かにするために地域で連携し、新たに供給できるモデルを地域でつくる旗振り役になる会社にしていきたい。そして人生を楽しみ安心して暮らせる会社と地域づくりを通じた、ひとづくり仲間づくりそういう志のある集団でありたい。と話す林氏の熱き報告でした。

県北支部総会・特別例会

2024スローガン「企業を取り巻く環境の変化を捉え、活力ある企業づくりと地域づくりを実現しよう！」

活力ある企業づくりと地域づくりを目指して

4月25日（木）ホテル紫苑で2024県北支部総会・特別例会が開催されました。県北支部は県内で最も広範囲にわたる地域であり、若手農業者をはじめ中堅・ベテラン経営者など多くの経営者が集結し、活気あふれる総会・特別例会となりました。

総会では、前年度の活動報告と次年度の活動方針と役員が承認され、県北支部スローガンを「企業を取り巻く環境の変化を捉え、活力ある企業づくりと地域づくりを実現しよう！」と掲げました。地域づくりについては、コロナの影響もあり近年は難しい状況でありましたが、今後は語り合う場を積極的に作り、何が課題なのか一人で悩むことなく仲間と共に考え解決に向け次の展開につなげていくことを参加者で共有し総会を終了しました。

すべてはお客様に喜んでもらうことを第一に

特別例会では、㈱松原農場代表取締役　松原久美氏より「人との出会いが運命を拓く」をテーマに報告していただきました。

松原氏は1968年酪農が盛んな時代に2頭のホルスタイン種を導入して手探りで酪農経営をはじめました。ジェラートは、地域の子どもたちに喜んでもらえたことをきっかけに、よりたくさんの方にミルクのおいしさを知ってもらうため、また雫石の風景や農村風景を知ってもらうため、2001年に「手作りアイスクリーム牧舎　松ぼっくり」を開業します。その3年後には、ジェラートのためにわざわざ遠方から来てくれる方に雫石の生産者たちのおいしい野菜を直接届けるため「産直松の実」を開店。2013年には、素晴らしい景色を見ながらジェラートを味わってもらおうと、遊歩道を整備し「小さなカラマツの森」が誕生します。松ぼっくり開業当時は車もなかなか通らない場所で不安がありましたが、発想を転換し、目的地になっていればドライブがてら市街地より多少遠くても足を運んでくれることを実感したことから、今となってはこの長山街道に店を構えて本当に良かったと話します。また、改めて開業してからを振り返り、「今まで人とのつながりや出会いでさまざま教わることが多かったことから、最初から苦手意識をもたず多くの人から刺激を受け勉強しながら前に進んでいくこと。いくら時代が進んでも過去のことをしっかり振り返ることが大切」と語ります。

歩みをとめない松原氏のこれらの取り組みは、常にお客様に喜んでもらうことを第一に考えた結果、地域になくてはならない地域の人に愛されるお店となりました。今後は雫石の自然をより満喫してもらおうとキャンプ場の開設を目ざしています。

松原　久美 氏

農業は景観を作る大事な産業

「農業は大事な産業であるとともに、景観を作っている産業でもあることをもっと多くの人に認識してほしい。」と松原氏は語ります。「農業の必要性を再確認し、自給できる部分は自給し、これからの人口減少に備えること。そして地域の経営者が地域の若者を外に出さないように努力すること。企業誘致より家業が大事であること。地域の子どもたちを地域にできるだけ残していきたい。それぞれの企業による経営が地域にしっかりと根を張ることで、人の流出を防ぐきっかけになるのではないか。」と地域への思いがとめどなく溢れます。

参加した方からは「畜産業を基幹に乳製品の製造を営んでいる経営に共感した」「ジェラート販売を通じて一次産業の重要性を消費者に伝える方法は日本の農業の発展のために必要だと実感した」「農業が日本の原風景を作っているという言葉に感動した」という感想があげられ、経営者一人ひとりの心に響く報告でした。

県央支部総会・特別例会

2024スローガン「自主・民主・連来の精神で仲間と共に変革し、良い経営環境を作ろう！」

2024県央支部総会・特別例会が4月23日(火)紫波町オガール大スタジオで開催されました。今年度はこれまで3地区（紫波矢巾・花北・遠野）からで地区活動を続けてきましたが、遠野地区が岩手シリアス支部へ移動したことから、2地区（紫波矢巾・花北）でスタートします。

当日は吉田代表理事（㈲いわてにっかコミュニティ企画代表取締役）にもご参加いただきご挨拶いただきました。

総会では、2023年度の振り返りとして、支部例会は3つの地区で交互に担当し、打ち合わせと案内チラシまで丁寧に関わりあいながら例会を開催しました。特長は、新しく仲間を増やそうと7月に2日間かけて、矢巾町内（流通センター内）を幹事の皆さんで一斉に例会案内を持ち訪問しました。また、同友会をゲストの方に知ってもらおうと、新会員オリエンテーション・同友会を知る会を企画し、新会員とゲストの方々に参加いただきました。その結果として新会員4名も入会する大きな成果になりました。

今年度は3つの活動方針1．企業変革支援プログラムを深く学び、実践につなげます。2．WebやSNSを効果的に活用し、組織率3％に増やします。3．計画的な例会づくりで、仲間を巻き込み学び合います。の3つの方針と役員案が提案され全会一致で承認されました。

2代目として社長就任後、業績急落の事態に

総会後の特別例会として、秋田同友会から㈱丸栄堂 代表取締役 三浦大英氏より「幸せを気づける全社一丸体制で『小さな一流企業』になる～弱みを強みに10年の変革のあゆみ～のテーマでご報告いただきました。

三浦　大英 氏

丸栄堂は三浦氏の父（現会長）が1975年（昭和50年）に百貨店業を創業しその中に石材部架設、翌年は葬儀部を作ったことから始まりました。その後移転し秋田県角館町（現在の仙北市）で葬儀会社と仙北墓苑「朝陽の杜」を経営していました。三浦氏が引き継いだのが2012年、38歳の時でした。その頃の社内は課題が山積みでしかも、社員、奥様の言う事に一切耳を貸さず経営者と社員間での意思疎通ができない状況で、業績も毎年悪化し、社員からは「会社を辞めたい」という声も出ました。

経営指針を創る会を受講してからの変化

このままではいけないと悩んだ末、根本的に解決をしなければと2014年秋田同友会の経営指針を創る会を妻と一緒に受講します。受講しているうちに、先輩経営者から大変厳しい言葉や、いかに人の話を聞かず自分よがりになっていたかを痛いほど知ります。それと同時にこれまで支えてくれた妻にも本当の自分の辛さや愚痴も全部話すようになりました。

そこから大きく変わっていきます。社員の話に耳を傾け「こうしたい、ああしたい」と熱く語りました。そんな中で一度退職をした社員がまた再び戻ってくれるという嬉しい出来事もおこります。業績も順調に上がり、家族葬などの需要も大きくなり、葬祭場の新設や新しい葬儀プランの開発など積極的に取り組み、社員も増えてきました。

現状を正直に話すことで実践につながる

経営指針をつくり、まず最初に実践したことは「社員に隠さず現状を伝える」「全社員に数字を公開する」「同友会の会員企業の税理士、社労士に力をかりる」3つを決め新しくスタートを切ることができました。そして10年ビジョンを社員と一緒に作成できたことで進むべき道が明確になりました。「私の願いは『企業を取りまく人たちを幸せにすること』です。それを実現するためには、経営理念の実践しかないと思います。これからも社員と共に幸せを気づける「小さな一流企業」を目指して今後も邁進していきたいと思います。」と力をこめてご報告いただきました。

県南支部総会・特別例会

2024スローガン
「小さな種まきをしよう　そして土壌づくりを」
～学びは企業の大小にとらわれずに～

県南支部総会が4月22日(月)、前沢市のセレモニーホールサンフレックスで開催されました。挨拶に立った菅原秀子支部長は、「今年度は『小さな種まきをしよう　そして土壌づくりを』をスローガンとして掲げました。土壌を耕し豊かにし、種まきをしなければ、新しい芽は成長しません。今年は支部挙げて学び合い活動を丁寧に重ねていく年にしたい」と呼び掛け、今年度がスタートしました。

また特別例会では、㈲前沢実業　セレモニーホールサンフレックス　支配人の菊地真莉絵氏を報告者に迎え、ご自身の体験をもとに「働きがいのある職場づくり」への取り組みについてお話いただきました。

同社は県南地域の葬祭関係のケータリングなど、食事関連の多くを担っていることから、その期待は高く、現場に責任を持つ菊地氏の役割が大きいこと、また食材を熟知したベテラン社員が厨房にいることから、その技能をいかに引き出しお客様に喜んでいただくかなど、ご自身の日常の努力が垣間見える報告でした。

「地域の中小企業の付加価値づくり、という点でとても参考になった。自社としてもあらたな挑戦をしていく（新規開拓をしていく）ヒントにもなった。」などの感想もあり、議論が深まった特別例会となりました。

岩手リアス支部総会・特別例会

2024スローガン
「気仙・遠野・宮古釜石3地区体制で100名支部の実現へ」
～経営者も社員も相互に学び交流し合い、次世代のリーダー育成を～

4月25日(木)大船渡プラザホテルで岩手リアス支部総会および特別例会が開催されました。新支部長に選出された橋詰真司氏（㈲橋勝商店代表取締役）は、「歴史ある岩手リアス支部の支部長を担うことになり、その重さを実感しています。震災から13年が経過し、地域を担う若い世代も戻ってきています。岩手リアス支部の特長は世代を越え、地域を越え、経営者も社員も共に学び合える支部であることです。今年は念願だった100名支部を実現し、気仙地域を更に盛り上げていきましょう。」と挨拶。今年にかける意気込みをお話いただきました。

また岩手リアス支部では、今年宮古・釜石地域の新規開拓に本腰を入れていきます。更に青年経営者(後継者)や就労困難な方への支援(ユニバーサル就労支援）などの部門を設け取り組むことや、11月には大船渡で岩手同友会第22回経営研究集会の開催も決まっており、今年にかける意気込みも増しています。100名支部実現へ向け、一歩動き出した総会となりました。

どんな壁をも乗り越える圧倒的なエネルギー

またその後行われた特別例会では、宮城県気仙沼市から㈱斉吉商店 専務取締役の斉藤和枝氏をお招きし「やさしく、つよく、そしてかわいらしく」をテーマにお話いただきました。

㈱斉吉商店は1961年、廻船問屋として大正10年創業しました。その3代目の長女として生まれた斉藤和枝氏は、1989年斉吉商店に入社。2002年から現職となり、地域でも「気仙沼つばき会」の代表を務め、地域を牽引してきました。

大震災、コロナ、そして看板のさんまの大不漁と、次々と襲ってくる障壁を乗り越えながら、新たな発想で人と人とのつながりを大切にし次々に新商品を開発。そのアイデアの斬新さと進めていくバイタリティ、パワーに圧倒されたご報告でした。

（次回報告の詳細を掲載予定です。）

2024 全県6月例会

4委員会共催（経営労働・共同求人・社員共育・障がい者・ダイバーシティ）

55名の参加で今年初開催

～少人数で高付加価値を生み続けるための「次の一手」とは？

大貫建築㈱ 代表取締役 大貫潤平氏

6月11日、アイーナ803会議室にて岩手同友会、全県6月例会が開催されました。

福島・宮城からも6名が参加

県内各地から集い、多くの参加者でグループ討論で学びあおうと、4委員会（経営労働委員会、共同求人委員会、社員共育委員会、ダイバーシティ障がい者委員会）が共催し、年に4回開催することになりました。初回の6月は、経営労働委員会が担当し、「少人数で高付加価値を生み続けるための『次の一手』は何か？」～経営理念、事業定義は、働き方と生産性の変革で具現化できる～をテーマに、報告者に大貫建築㈱ 代表取締役 大貫潤平氏（宮城同友会）をお迎えし、55名の参加で行われました。当日は福島同友会、宮城同友会からも6名が応援に駆け付け、グループ討論では、熱心な議論が展開されました。

働き方改革をしながら売り上げを伸ばす

報告に立った大貫氏は、宮城県仙台市の郊外、秋保温泉に独立開業、個人の新築住宅を提案してきました。10年前に宮城同友会の経営指針を創る会の門を叩きますが、その時に先輩から言われたのは、「経営指針をつくるのと同時に本気で経営再建をする気概がないと、会社がなくなるよ」との言葉でした。そこから一念発起。今では様々な業種の仲間の力を借りて、家を建ててくださったOBの方へのマルシェの開催や、SNSなどの広報戦略で、お客様から頼られる存在になりました。10時出勤、一切残業無しの職場環境を作り上げ働き方の改革をしながら、同時に計画した売上げを毎年伸ばし続ける付加価値の高い会社づくりを実践してきました。完工し引き渡しの日に、家族で手紙を渡す架け橋にもなっていますが、その感動の裏話や家族模様など、実際に現場で起きている様々なドラマに驚き感動した時間となりました。

こんな時だからこそ理念を徹しよう

グループ討論では「あなたの会社の事業定義は？」「その実現のための次の一手は？」などのテーマで意見交換がされましたが、福島、宮城、岩手の皆さんで作り上げる雰囲気に、さながら「東北フォーラム」のような時間が足りないほど盛り上がった討論となりました。「これだけの物価高騰や円安の中で、むしろ今までの手法ややり方を根幹から見直す必要が出てきている」「自分たちがこだわりを持って取り組んでいても、お客様のニーズが変われば、そこに合わせていかないと」「むしろこういう時だからこそ、理念に徹し社員と徹底して話していかないと」など、自社に置き換えて話している姿が印象的でした。

2024青年部会総会

「次の時代を創るのは俺たちしかいない！」～Get Together～

5月10日（金）2024青年部総会がプラザおでって大会議室で開催されました。当日は田村代表理事も参加していただきご挨拶をいただきスタートしました。

まず初めに、2023年度の部会長の吉田巧氏（岩手日化サービス㈱代表取締役）から昨年度活動の振り返りがありました。特に活動の特長である移動例会は、山形同友会の企業を訪問。例会にも参加して深める充実した2日間だったと報告されました。

また、今年度より新しく部会長になった昆卓広氏（㈲昆石材店　代表取締役）からは、新しく「Get Together」のスローガンが提起され、会員同士の関わり合いを強める一年にしようと、全会一致で承認されました。

藤村　真哉 氏

何のために経営するのか

特別例会では、2018年の青年部設立以来青年部を牽引、今年度で青年部の卒業を迎えるふじむら農園代表の藤村真哉氏に「不離一体」～青年部活動と自社の結びつき～というテーマでご報告いただきました。藤村氏は2011年に同友会に入会し、その年の第7期経営指針を創る会を受講。「何のために経営するのか」を考え経営理念を成文化させました。翌年、父親から事業主として引き継ぎ、家業から企業へと社員を採用し順調に売り上げ、利益を拡大しました。

衝撃的な出会いが本気になるきっかけ

しかし、頼りにしていた社員が突然退社します。新しく社員を採用するも長続きせず、また退社するという事態が起こります。ちょうどその頃、2015年の県例会の報告者広島同友会㈱クニヨシの代表取締役 早間雄大氏（当時の中同協青年部連絡会代表）の事前打ち合わせで早間氏の会社を訪問します。そこで広島同友会青年部の関わりの深さと、経営者として本気にならないと会社がうまくいかないことを知りました。「早間さんの会社訪問は衝撃的で人生が変わるほどでした。」と藤村氏は当時を振り返ります。そこから会社を徹底的に変え、学習型企業を目指して奮闘します。今では「リンゴ」「桃」は全国から注文が絶えない高付加価値で提供するまでに成長しました。

青年部活動で学び会社が成長するまさに「不離一体」経営の実践報告でした。

盛岡第1地区訪問例会

～日本初の動物公園内フリースクール「ぐるぐるの森」訪問～

6月17日（月）盛岡市動物公園ZOOMO内のぐるぐるの森にて、盛岡支部第1地区にて企業訪問が行われました。

みんなの遊び場　ぐるぐるの森は今年の4月1日に日本で初めて動物公園の中に設置された不登校支援のフリースクールです。今回は代表の山内まどか氏より、なぜフリースクールが必要とされているか、不登校の現状や理由など詳しくお話をしていただいたあと、ZOOMO散策ランチツアーを行いました。

不登校は様々な複合的背景が絡んでおり、年々増加傾向にあります。不登校の児童生徒の受け皿として2022年にぐるぐるの森を開所。自然豊かで開放的な環境の中、子どもたちはのびのびと学習しています。誰もが、自分を生きる幸せに包まれ、その幸せが好循環し地域を潤していく、そんな社会になることを願い、学校に通えない子どものこころと未来を支えるスクールとして山内氏はオープンしました。

『誰もが「自分を生きる幸せ」に包まれ、地域を潤せる社会を目指します』というビジョンを掲げ懸命に事業に取り組む山内氏の報告に、その後のグループ討論でも活発な意見が出され、盛り上がった訪問例会となりました。

新会員紹介

今回もたくさんの仲間が増えました！

支部地区	岩手リアス支部　気仙地区
氏名	古谷　恵一
企業名	地域コーディネーター
役職名	地域コーディネーター
住所	陸前高田市高田町字中田 62-2 ヴィレッジハウス陸前高田 1-405
TEL	080-4208-4940
事業概要	地域コーディネーター

支部地区	岩手リアス支部　気仙地区
氏名	鍛治川　直広
企業名	合同会社ぶらり気仙
役職名	代表社員
住所	陸前高田市高田町字西和野 33-4
TEL	0192-47-5386
事業概要	特産品事業（地域資源を活用した商品開発）、観光事業（海中熟成を活用した体験型サービス）

支部地区	盛岡支部　盛岡第 2 地区
氏名	松村　卓拓
企業名	合同会社 Regional platform
役職名	代表社員
住所	盛岡市大館町 9-2
TEL	050-1286-1711
FAX	050-1286-1711
事業概要	介護事業（密着型介護施設）

支部地区	県央支部　紫波矢巾地区
氏名	藤村　真也
企業名	（株）藤村商会
役職名	取締役統括本部長
住所	紫波郡矢巾町流通センター南 3 丁目 9-7
TEL	019-638-3311
FAX	019-638-3492
事業概要	上下水道資機材及び一般配管材、住宅設備機器の卸売と農業用機械の設置工事

支部地区	県北支部　岩手山麓地区
氏名	菊池　大輔
企業名	（株）菊池工業
役職名	代表取締役
住所	岩手郡雫石町繋第 5 地割 190-156
TEL	019-692-3522
FAX	019-692-5808
事業概要	一般建設業、産業廃棄物収集運搬、一般貨物自動車運送事業、除雪・排雪業務

支部地区	盛岡支部　盛岡第 4 地区
氏名	小笠原　一寛
企業名	（株）小笠原冷凍空調
役職名	代表取締役
住所	盛岡市永井 4 地割 105
TEL	019-638-6721
FAX	019-638-5916
事業概要	冷凍空調設備、保守点検、店舗設計施工、冷熱機器修理

支部地区	盛岡支部　盛岡第 1 地区
氏名	桂川　義人
企業名	（株）東北ダイケン
役職名	営業所長
住所	盛岡市中央通 3-7-1-2F
TEL	019-651-1172
FAX	019-651-4988
事業概要	ビルメンテナンス業

支部地区	盛岡支部　盛岡第 1 地区
氏名	武田　春恵
企業名	（株）キクサー
役職名	代表取締役
住所	盛岡市茶畑 2-24-10　チャバタケ doors3F
TEL	019-656-7090
FAX	019-656-7091
事業概要	ソフトウェアテストサービス業

新会員オリエンテーション

新会員を迎えることで支部に新しい風が吹く

岩手同友会は昨年度もたくさんの新会員を迎えることができました。各支部ではそんな皆様を支部役員中心に定期的に開催し会員同士の交流を深めるオリエンテーションの「輪」が広がっています。

経営に真剣に真正面から向き合い学びたい

盛岡支部では、5月10日（金）同友会3F会議室に於いて開催されました。オリエンテーションに参加された盛岡の役員の皆さんから、これまでの同友会に入会し、会社がどう変化していったかを各自報告していただき、本音で語る同友会の良さが伝わる時間となりました。

新会員の皆さんからは「同友会に入会したきっかけは、自社をもう一度見つめなおし、社員と一緒に頑張っていきたい。そのためには経営者自身が学ばなければと思い入会しました。」という話や、「皆さんの報告を聞き、真剣に経営に向き合い学び、その結果会社が変わっている状況がよく伝わりました。自分もそうなっていきたい。」など、オリエンテーションの大事さを改めて感じる会となりました。

入会された方に同友会での学びを熱く語る

また、県央支部は5月20日（月）やはぱーく大研修室に於いて、新会員と紹介者も一緒に参加するなど、12名が集い賑やかに開催されました。瀬川県央支部長は（紫波環境㈱代表取締役）「オリエンテーションは紹介していただいた方と一緒に参加していただくことでより支部の結束が強くなる。そして毎回、ミニ報告される現会員の皆さんも、熱く報告をされ、これが、支部活動の活性化につながる。」と改めて新会員オリエンテーションの大切さを話されました。次回は7月に両支部で2回目を開催予定です。

盛岡支部オリエンテーションの様子

新事務局員紹介

宮　麗子さん

今年の4月から同友会事務局に入局しました宮と申します。私は自分の人生を振り返り見つめ直したいと考えていた時期に岩手同友会と出会いました。最初は当時の職場の前任者から同友会を紹介されたのがきっかけでした。だんだんと関わり合っていくうちに、なぜこの経営者の方々は時間と労力をこんなにも費やし地域のことを一緒に真剣に考えてくれるのだろうと衝撃を受けたのを覚えています。会社のことはもちろんのこと、地域のこと社員のことを真剣に考え誠実に学び続ける姿勢に感動し、少しでも近くで自分も共に成長したい、さらには人間性を高めることで今後の自分の人生を充実させたいと思った結果、入局を決断しました。これからも同じ思いを共有できるたくさんの経営者の方々にお会いできるのを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■同友会ホームページをご活用下さい。www.iwate.doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙または e.duyu をご利用下さい。

DOYU IWATE 同友いわて 2024 Vol.177

2024年7月1日発行

発行／岩手県中小企業家同友会
広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-5 カガヤ肴町ビル3F
TEL019-626-4477 FAX019-626-1644
Mail：info@iwate.doyu.jp

注文すると「明日」来る。
オフィス・事務用品通販なら「アスクル」で

日用品　消耗品　文房具　飲料　工具

外出せずにFAX、Webにてご注文できます！
ご登録・お問い合わせは平金商店へお待ちしております。

https://www.askul.co.jp/ag/hirakin/

ASKUL AGENT 株式会社平金商店
アスクルエージェント TEL:019-624-2121

オリジナルラベルワインを作成します

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

自園自醸ワイン紫波 SHIWA 岩手県紫波町産ぶどう100%

社名ロゴ写真OK　包装、のし無料　12本以上作成料無料

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
自園自醸ワイン紫波醸造元 (株)紫波フルーツパーク
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビング・スクール RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL
三陸技能講習センター Sanriku skill training center
平泉ドライビング・スクール HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL
遠野ドライビング・スクール TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
http://www.si-dsg.com/mobile

めだか

有限会社いわてにっかコミュニティ企画
〔事業内容〕デイサービス／生活介護／訪問介護／住宅型有料老人ホーム
児童デイサービス／相談支援事業所／訪問看護／就労継続支援B型

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
真の循環型社会を目指します。

食用油　燃料化　精製　植物　光合成　CO2　BDFの製造・販売　BDF燃料　エネルギー燃料　紫波町　浄化槽保守点検

紫波環境株式会社
岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL:019-672-2656　FAX:019-601-2686
http://shiwakankyo.com/
し尿・浄化槽汚泥収集運搬

物を大切にし環境にやさしくありたい　使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ　Doki-Doki 2nd STREET

(株)トータル・リユース
代表取締役社長　伊瀬　幸郎
ise　yukiro

本社　〒026-0041　岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL:0193-21-2126　FAX:0193-21-2127
携帯　090-8780-3296
E-mail:trise@arion.ocn.ne.jp

「企業変革支援プログラム ver2」

自社の立ち位置を明確にして社員とともに目指す企業像

「企業変革支援プログラムステップ1」、「企業変革支援プログラムステップ2」を1冊にまとめ、全面改訂

A4判、80ページ。
定価2,200円
（本体価格2,000円＋税）
2022年10月発行

人と自然にやさしい
環境を創り
地域型企業として
貢献します。

浄化槽　住宅設備のアフターサービス　水まわりのリフォーム　北上営業所

IWATE IKKA SERVICE
岩手日化サービス株式会社
〒020-0402 盛岡市黒川22-56
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614